

市内に根付く樹木たち編

この地に根を張り、長い年月を生きてきた樹木たちが、今も市内に大きく枝を広げています。私たちがよりもずっと昔からこの地を静かに見つめてきた樹木たちは、遙かな歴史の流れを感じさせてくれます。

①三浦杉 (美和 吉田八幡神社所有)

【県指定天然記念物】

樹齢 約850年 幹周 約10m



相模国三浦大介義明が、下野国・那須野への悪狐退治の際に神社に参拝し植えられた杉と伝えられる。はじめは鎌倉杉と呼ばれたが、この話を聞いた光圀公が三浦杉と命名した。

②江畔寺のいちよう (緒川 江畔寺所有)

【市指定天然記念物】

樹齢 約450年 幹周 約6m

元禄のはじめ江畔寺に隣接して信願寺(現在水戸市)があったが、光圀公が江畔寺参詣の際、信願寺に所払いを命じた。その信願寺の住職が江畔寺の庭先にこのいちようを植えて立ち去ったと言われている。



③八房梅 (山方 木村新さん所有)

【市指定天然記念物】

樹齢 約300年 幹周 約1m

白花・八重咲きでめしべは2つ以上、ときには8~9つもあり、実はひとつの芯に群がるようになる。座論梅の別名もある。

この木から接ぎ木して弘道館と偕楽園弘文亭へ40本献上し、徳川齊昭から感謝状を贈られたとの記録があるが、残念ながら現在はどちらにも残っていない。



⑤長倉のエノキ (御前山 筧博さん所有)

【県指定天然記念物】

樹齢 約400年

幹周 約8m

当時、この地が奥州道に通じる要害の地で、長倉城主佐竹氏の領内境木として植えられたと言われている。

また、「いぼとり榎」と名付けられて、昔はいぼを治すための参拝者が数多くあったという。



④大げやき (大宮 海老根昇さん所有)

【市指定天然記念物】

樹齢 約400年

幹周 約7m

大宮地域の中心にそびえる。幹の部分には穴があるが、昔はもっと大きくあいており、よく子どもが入って遊んでいたそう。

